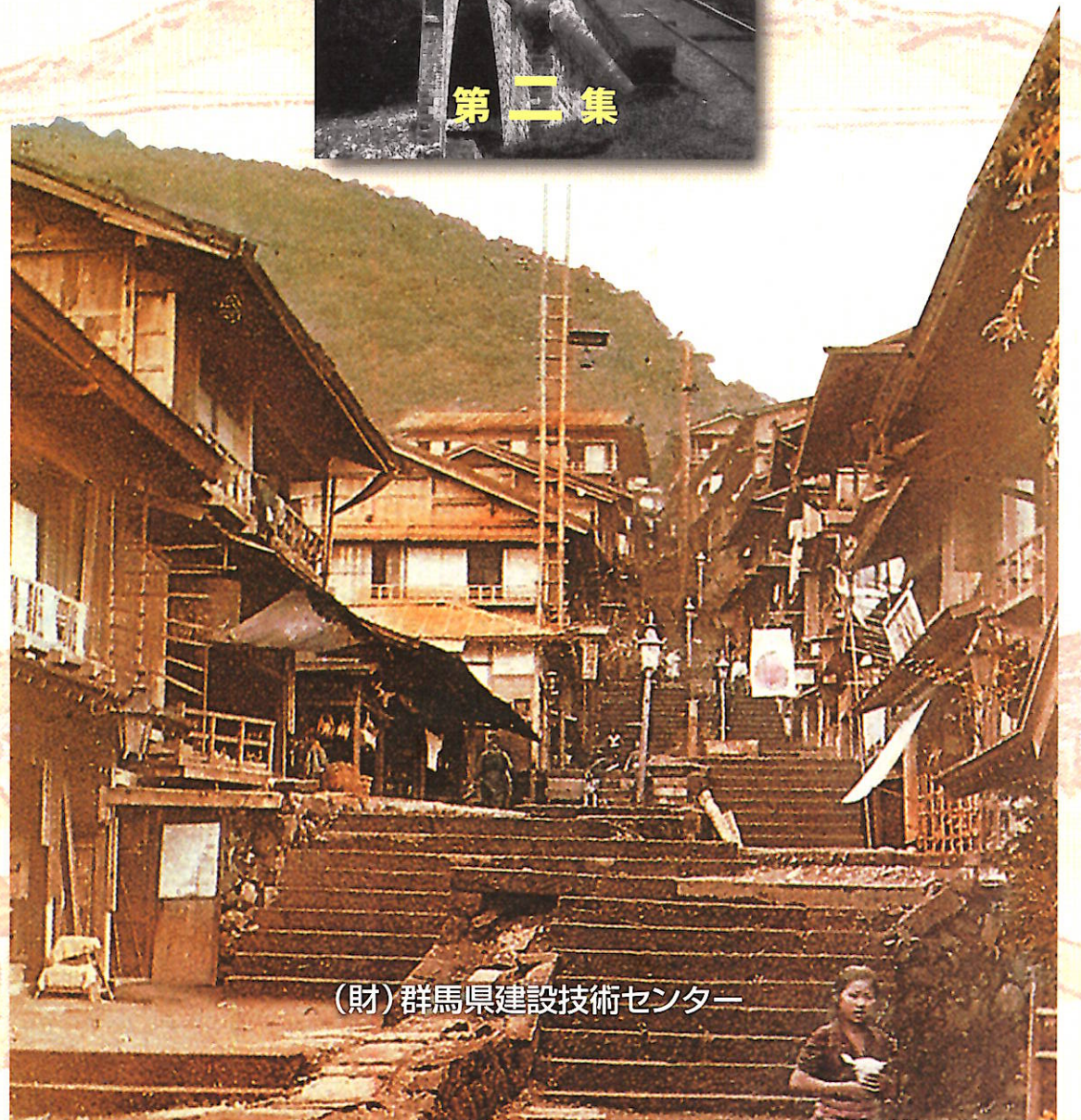


ぐんまの土木遺産

県土発展の礎として築かれた土木構造物を訪ねて

ぐんまの土木遺産

第二集



(財)群馬県建設技術センター

(財)群馬県建設技
B

446

右三目丸か山近
岩山多回遊之
右二万二千りて川之

坂本



布部

布部令名
右三目丸か山近
岩山多回遊之
右二万二千りて川之

形迎女と
一歩くま
ヨリ下ル

「ぐんまの土木遺産<第二集>」を皆さまにお届けします。前回「ぐんまの土木遺産」(以下第一集と言う。)を発刊して早いもので7年近くの時が経ちました。第一集を発刊した後も、建設技術センターでは引き続き土木遺産に関する資料を収集してまいりました。また「ぐんまの土木遺産<第二集>」(以下第二集と言う。)編纂のため、各方面で活躍されている先輩技術者で構成される「土木遺産選定委員会」を平成16年に設立し、第二集に掲載する貴重な県内の土木遺産を選定してきました。

その間新たな橋の整備により第一集で紹介した「錦桜橋」や「大正橋」、「坂東大橋」は更新又は撤去され、その姿は記録として生き続ける事となった土木遺産もあります。一方第一集に掲載された明治初期ヨハネス・デ・レーケの指導により造られた「八幡川砂防堰堤群」を含む榛名山麓砂防堰堤群が昨年「荒廃した榛名山麓の7河川に巨石積堰堤群120基等が建設され、現在もその機能を十分果たしている」として2004年土木学会選奨土木遺産に選定されました。更に今回の第二集に掲載した「碓氷第三橋梁(通称めがね橋)」や「丸沼ダム」はその希少性と技術的完成度の高さ及び現在でも機能している点からそれぞれ平成5年と平成15年に国の重要文化財に指定されています。

このように今回発刊した第二集の特徴は、群馬県発展の礎として築かれた土木施設のうち「歴史的に価値のある土木施設、又はその存在、成り立ちを後世に永く伝承すべき土木施設」を広く掲載した点にあります。このため、群馬県が管理する施設を中心に掲載した第一集に比べ国や市町村が管理する施設、JR東日本や東京電力のような民間が管理する施設などについても幅広く資料を集め掲載しました。また対象とする土木遺産も、明治以降の近代化遺産を対象とした第一集に比べ12世紀中頃開削されたとされる「女堀」から土木遺産として定義するには余りにも最近完成した土木施設も敢えて一部掲載しています。

私たちが日常なにげなく利用している土木施設の中にも、先人達の英知と努力、そして苦勞の跡が刻まれています。私たちはその痕跡を辿ることによって、初めてそこに在る土木施設の意義や役割、また先人達が駆使した当時の土木技術を知ることができると共に、現在の豊かで快適な生活の基礎を築いてきた先人達の思想や苦勞、残された魂の一部に触れることができるのではないのでしょうか。

建設技術センターでは、県内各地に残るこのような貴重な土木施設を今後とも「土木遺産」として位置付け、資料の収集・保存に努めたいと考えてい

ます。今公共事業には大変厳しい視線が注がれています。しかし一人でも多くの県民の皆様がこの冊子と出会い目を通していただく機会をすることで、群馬県の先人達の汗と努力の結晶をご覧頂くと共に、「安全、豊か、快適な」県民生活を実現する上で土木施設の重要性、必要性をご理解いただく一助になれば幸いです。

最後に、この冊子の編纂にあたり貴重な資料を提供していただきました多くの関係者の皆様や、第二集編纂にご尽力いただきました土田 中委員長を初めとする土木遺産選定委員会委員の皆さまに心より感謝申し上げます。

平成 17 年 4 月

(財)群馬県建設技術センター

理事長 川 西 寛

「ぐんまの土木遺産<第一集>」が発刊されてから、おおよそ7年の歳月が経過いたしました。第一集が明治時代から昭和30年代までに建設された歴史的に価値のある土木施設で、かつ県や市町村役場が建設したか、管理している施設に限定して編纂されたのに対し、第二集は「歴史的に価値のある土木施設やその存在、成り立ちを後世に永く伝承すべき施設」と年代的な枠を若干広げた点に特徴がございます。さらに、土木施設の管理者についても県や市町村に限定することなく、国が管理する施設やJR、JH、東京電力など諸々の団体が管理する施設、さらに管理者が不明な施設も掲載することいたしました。これらの施設の選定にあたりましては、編纂者であります(財)群馬県建設技術センターから委嘱された10名の委員による投票と合議により選定いたしました。その評価について意見の分かれたものもございました。また、選定対象となる施設に関する資料等が不足して歴史的な価値評価について躊躇するものもございました。これらの評価につきましては、今後さらなる調査を継続していただき、評価を正していただけたらと考えております。選定した土木施設は、いずれも県土発展の礎として多くの土木技術者の英知と努力によって建設されたものであり、それらの施設は例外なく人々の人命を守り、また人々の生活を潤し、快適な生活を営むために寄与したものであります。この冊子を手にして読まれる読者の皆様には、これらの施設の果たしてきた役割と共に、土木事業の重要性を認識していただければ、幸いに存じます。

平成 17 年 4 月

土木遺産選定委員会
委員長 土田 中

本書の構成

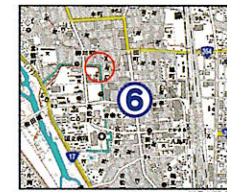
人と人が仲良く手を取り合う橋をコンセプトに

① 柳 橋 やなぎばし



赤御影石の高橋、白御影石の床版。外観からは石橋のように見える柳橋は、お濠を渡り坂道へとつながる橋です。高橋に嵌め込まれたテンドガラスは橋名の由来となった「柳の葉」をまねています。「人と人が仲良く手を取り合う橋」がデザインコンセプトで、周辺の街並みと調和したモダンなデザインは、建築工芸家・水原徳彦氏によるものです。柳橋は多くの市民の憩いの場としても親しまれています。

所在地	高崎市高松町
施設名	柳橋都市公園
年代	昭和31(1956)
改修	昭和41(1994)
構造形式	単跨RC床版橋
主要諸元	橋長12.0m 橋幅3.0m
管理者	高崎市



① 掲載施設

群馬県の県民局単位に県内をAからEの5地区(エリア)に大別し、地区毎に「道路、橋梁、トンネル、河川、その他」のカテゴリー順に施設を掲載しています。また、「目次」と巻末の「索引」で施設を検索することができるように編集してあります。

② メインフォト

掲載施設の全景を写しだしています。

③ 本文

施設に関するプロフィールや特徴、エピソードなどを紹介しています。各施設の歴史的な背景や周辺の観光などについても記述しています。

④ 概要

施設の基礎的なデータを紹介しています。

⑤ サブフォト

メインフォトとは別のアングルで、特徴的な写真を掲載しています。

⑥ 位置図

施設の所在地を確認することができる地図を掲載しています。

⑦ 関連データ

メインフォトとは別のアングルで、施設の特徴、歴史的遺産など施設と関連したものを掲載し、施設のイメージを理解し易いようにしてあります。

⑧ 施設ナンバー

エリア単位(各色別)の施設番号。エリアマップに記載の番号と対応しているので、マップ上で施設を探すのに便利です。

歴史遺産に満ちた田園都市に、躍動的な2連のアーチ橋

福島橋

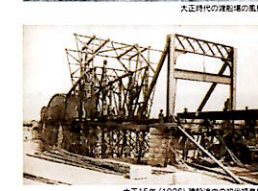
① 福島橋 ふくしまばし



所在地	佐原郡玉村町福島～玉村町上橋島
路線名	国道
年代	昭和35(1960)
構造形式	鋼管系二連アーチ橋×2連
主要諸元	橋長220.0m 橋幅12.5m
管理者	群馬県



⑦ DATA



福島橋は、利根川により分断された前橋・伊勢崎地区と高崎・藤岡地区を連絡する橋として地域の発展と広域的な交流促進に大きく寄与している橋です。大正15年(1936)に初代福島橋が架橋される以前は、この橋の上流約300m付近に「福島の渡し」という渡し場があり、元和2年(1616)に福島番所が設置されていました。橋の架橋は地域の人々にとって自由と夢の象徴だったでしょう。初代福島橋の開通時には、近隣から多くの住民が集まり、怒濤の橋の完成を祝ったと伝えられています。上毛三山を隔てる玉村町は、利根川、烏川という2つの豊かな水運に恵まれ、歴史的遺産も豊富な田園都市ですが、昭和50年代後半からモータリゼーションの発達と急激な人口増加により都市化が著しく進行し、利根川を渡る橋梁付近で慢性的に交通渋滞が発生するようになりました。福島橋は、このような背景と橋の老朽化を解消するために昭和60年(1985)に旧橋の下流に架橋されました。二代目福島橋は、ニールセン系ローゼ橋と呼ばれる構造で、躍動的な2連のアーチは地域のシンボルとなっています。このため福島橋下流に架橋された流域下水道の処理水を運ぶ水管橋についても同じ形式の橋梁とすることとなりました。アーチ形式の管桁から斜めに張ったワイヤーで橋桁を支える構造(ニールセン系)形式の橋は、県内で最初の試みであったことから多くの橋梁技術者の注目を集めました。この福島橋については、新橋の架橋以降も交通量が飛躍的に増大したことから、平成13年(2001)二代目福島橋の下流約500mに新たに玉村大橋(国道 藤岡大胡線)が架橋されました。なお、橋の南側にある湯福寺には、玉村町の地名「玉」の由来となった龍の玉が祀られています。

C O N T E N T S

土木事業の意義と変遷について 8
 土木遺産年表 10
 土木遺産位置分布図 12

エリア-A

赤城南面道路（旧赤城有料道路） 18
 坂東大橋 20
 五料橋 22
 福島橋 24
 平成大橋 26
 上毛大橋 28
 敷島橋 30
 三郷用水橋梁 31
 ささら橋 32
 湯中子橋 34
 吾妻川橋梁 35
 沼尾川橋 36
 利根橋 37
 真壁ダム 38
 赤城白川堰堤 39
 潜下堰堤 40
 天狗岩用水 41
 群馬用水 42
 女堀 44
 大正用水 46
 前橋市の水道 48
 白井宿 50
 八木原の道しるべ 52
 綾戸穴道 54

エリア-B

碓氷第3橋梁（めがね橋） 60
 夢のせ橋 62
 碓氷橋 64
 赤松沢橋 66
 遠入川橋 67
 霧積川橋梁 68
 妙義大橋 69

神橋 70
 萬年橋 71
 蝉橋 72
 大日向橋 73
 金比羅橋 74
 三名湖（大谷池）三名川取水池 75
 瀧之橋 76
 渡戸橋 77
 高崎駅西口駅前広場 78
 柳橋 79
 城南大橋 80
 内山トンネル 81
 湯の沢トンネル 82
 小坂坂トンネル 83
 霧積ダム（霧積湖） 84
 下久保ダム（神流湖） 86
 道平川ダム（荒船湖） 88
 橋倉川堰堤 90
 住居附沢川堰堤 91
 小幡宿（雄川堰） 92
 高崎市の水道 94
 石造り下水溝（旧官営富岡製糸場） 96
 妙義神社の石積 98
 碓氷峠の道（旧中山道） 100
 碓氷関所跡 102
 中山道 安中杉並木 104
 群馬の森 105
 藤塚の一里塚 106
 倉賀野の分かされ 107
 少林山地すべり 108

エリア-C

白砂大橋 114
 上妻橋 115
 野反ダム（野反湖） 116
 鹿沢ダム（田代湖） 117
 箱島不動尊堰堤 118

エリア-D

尾瀬大橋 124
 尾瀬古仲橋 126
 吹割大橋 127
 吹割橋・浮島橋 128
 内楽橋 130
 永井川橋 131
 片品川橋 132
 薄根川橋 134
 第5利根川橋梁 135
 西中通学橋 136
 月夜野橋 137
 月夜野大橋 138
 諏訪峡大橋 140
 小袖橋 142
 岩本発電所用通水路橋 143
 黒岩橋 144
 赤谷川橋梁 145
 新三国大橋 146
 城堀川（滝坂川） 147
 清水トンネル 148
 関越トンネル 150
 金精トンネル 152
 綾戸ダム 153
 丸沼ダム 154
 矢木沢ダム（奥利根湖） 156
 奈良俣ダム（ならまた湖） 158
 玉原ダム（玉原湖） 160
 三国峠の道（旧三国街道） 162
 須川宿 164

エリア-E

渡月橋 170
 袈裟かけ橋 172
 はねたき橋 174
 草木橋 176
 下松島橋 177
 新上武大橋 178

利根川橋 179
 刀水橋 180
 梅田大橋 182
 福岡大橋 183
 草木ダム（草木湖） 184
 桐生市の水道 186
 休泊堀（太田頭首工） 188
 利根大堰 189
 板倉の水塚 190

その他の土木遺産

●エリア-A
 啄木鳥橋（きつつきばし） 194
 寺沢川リハビリパーク 194
 伊香保温泉の石段 195

●エリア-B
 岩倉橋 195
 昭和大橋 196
 長野堰（円筒分水） 196

●エリア-C
 万座川石張流路工 197
 万座川堰堤 197
 笹平（万座鹿沢口）急傾斜 197
 四万川ダム（奥四万湖） 198

●エリア-D
 谷川橋 198
 南郷堰堤 199

●エリア-E
 桐生川ダム（梅田湖） 199
 館林つつしが岡公園 200
 岡登用水 200

参考資料

委員会資料 202
 用語辞典 204
 索引 208
 選定委員会名簿・参考文献 210

表紙の写真は、明治時代の碓氷第3橋梁（めがね橋）と伊香保温泉の石段。
 裏表紙は左上より板鼻、坂本、安中、高崎を描いた安藤広重の浮世絵。



ぐんまの土木遺産(第二集)の発刊と 土木事業の意義、変遷について

1. 発刊の意図

土木事業は、人々が安全で安心して社会生活を営むために必要な生活基盤を整備する事業です。しかし、土木事業の重要性や必要性については、必ずしも正しく評価されているとは言えません。むしろ、その存在や役割は知られていないのが実情ではないでしょうか。(財)群馬県建設技術センターでは、土木事業に関わる公益法人として、県民各位に土木構造物の存在や成り立ちを知っていただき、土木事業を正しく評価していただくために本書を世に送り出すこととしました。

2. 第二集の特徴

ぐんまの土木遺産(第二集)は、平成10年9月に発刊した第一集の続編として編集したものです。第一集と異なる点は、掲載施設の選定にあたり、従来の方針とは別に「歴史的に価値のある土木施設やその存在、成り立ちを後世に永く伝承すべき施設」ということをコンセプトに、施工年代や施設管理者などを限定することなく、群馬県内に存在する全ての土木施設を掲載対象とした点にあります。

本書に掲載されている125件の施設の選定にあたりましては、学識経験者で構成される「土木遺産選定委員会」を設立し、熱心な議論のなかで決定いたしました。選定の対象となった土木施設は、いずれも先人たちの汗と苦勞の結晶の産物であり、弛まざる技術探求の成果でもあります。本書は土木技術者のための専門書ではありません。橋やトンネルなどの建設の歴史やその役割を平易に理解していただくための絵本であります。観光やレジャー等にも幅広くご利用いただけるように編集してあります。

3. 土木事業の意義

大谷休伯の尽力で整備された「休伯堀」や岡上景能が整備した「岡登用水」などは、施設の整備に尽力した人の名前を施設の冠として、その人の偉業を称えています。

しかし、このような事例は、土木事業では極めて希なことです。その多くが設計担当者や施工者の名前などが伏せられています。また、建設された施設も常に多くの人々の目に触れ、人々の日常生活に直接的に寄与するような構造物もあれば、砂防堰堤のように人里離

れた山の中で、その存在すら知られないで人々の安全を守っている施設もあります。土木事業は、この様に直接的、間接的に人々の生命と暮らしを守る施設整備をする意義深い事業なのです。

4. 土木事業の変遷

土木構造物の歴史は人々の確かな生活の歴史であり、叡智の集積した結晶であります。以下、本書に掲載されている構造物について概略的に変遷を示します。

■明治期

文明開化の号令とともに我が国の近代化が始まり、遅れていた公共土木施設の整備が開始されました。国は電力、鉄道など国の殖産産業を振興するようなインフラと水道、道路などの整備に力点を置いて公共事業を推進しました。

- 石造り下水溝—旧官富岡製糸場(明治5年)
- 三郷用水橋梁—両毛線(明治22年)
- 碓氷第3橋梁—旧信越本線(明治25年)
- 高崎市の水道(明治43年)
- 箱島不動尊堰堤—発電用貯水施設(明治43年)

■大正・昭和(戦前)期

大正期には、技術的にも独自技術の開発、モダニズムの隆盛など、さまざまな要件が加わり近代化の絢爛期に入りました。また電力用ダムけんらんの建設も加速し、産業の機械化を推し進めることを可能にしました。また、大正13年の上越線の開通(沼田まで)は、群馬県の主要産業である生糸の輸送を舟運から格段に進歩させ、県内と東京・横浜を直接的に結び産業のみならず、文化交流を活性化させました。

- 第5利根川橋梁—上越線(大正13年)
- 鹿沢ダム(昭和2年)
- 真壁ダム(昭和3年)
- 綾戸ダム(昭和3年)
- 前橋市の水道(昭和4年)
- 丸沼ダム(昭和6年)
- 清水トンネル—上越線(昭和6年)

- 桐生市の水道(昭和7年)
- 萬年橋(昭和8年)
- 三名湖(大谷湖)三名川取水池(昭和8年)
- 住居附沢入堰堤(昭和16年)

■昭和(戦後)期(昭和20年代から30年代初頭)

太平洋戦争により荒廃、疲弊した昭和20年代は、混乱する政治状況のなかで衰退した国力の回復を図るために戦後の復興事業が推進された時代でした。特に、昭和22年以降相次いで来襲したカスリン、アイオン、キティーの大型台風は、県内各地に大きな被害を与え、河川・砂防事業の進捗を図ることが急務となりました。

- 岩本発電所用水路橋—岩本発電所(昭和24年)
- 万座川堰堤(昭和25年)
- 大正用水(昭和27年)
- 南郷堰堤(昭和27年)
- 赤城白川堰堤(昭和29年)
- 潜下堰堤(昭和32年)
- 野反ダム(昭和31年)

■昭和30年代初頭から40年代前半

昭和30年初頭以降は、東京など首都圏への産業・人口の集中が顕著となりました。このため電力などのエネルギー確保とともに、生活用水や農業用水の安定的な確保が急務となりました。これらのニーズと治水対策を一元的、かつ総合的に実施するため本県内の利根川上流域に多くのダムが建設されました。

- 長野堰(円筒分水)(昭和37年)
- 赤城南面道路(昭和41年)
- 矢木沢ダム(昭和42年)
- 利根大堰(昭和43年)
- 下久保ダム(昭和44年)
- 群馬用水(昭和45年)

■昭和40年代後半から50年代後半

日本経済は高度成長期に入り、人々の暮らしにもゆとりが感じられるようになりました。交通手段もモータリゼーションの進展にともない自動車交通が主流となり、高速交通時代を迎えました。この時代には、人の交流や円滑な物流を確保するために積極的に公共投資が行われました。

しかし、昭和50年代初頭のオイルショックに始まる日本経済の陰りに伴い、それまで活発に繰り広げられた土木事業への投資も小休止となり、また環境問題も議論されるようになりました。

- 霧積ダム(昭和50年)
- 草木ダム(昭和52年)
- 玉原ダム(昭和57年)
- 桐生川ダム(昭和57年)
- 片品川橋—関越自動車道(昭和60年)
- 永井川橋—関越自動車道(昭和60年)
- 関越トンネル—関越自動車道(昭和60年)

■昭和60年代から平成期

昭和60年代から平成期初頭は、日本経済にとってバブル景気と呼ばれる好景気の時代でした。さらにバブル景気が崩壊した以降も、景気浮揚のための総合経済対策が数次にわたり実施され、公共投資はその中心的な役割を担いました。このため県内では上信越自動車道やダム建設などの大規模プロジェクトが進捗しました。

この時代では、土木構造物についても機能偏重の時代を反省し、景観や環境というキーワードを考慮した技術的水準の高い施設が多数建設されています。

その後、国と地方の厳しい財政状況の下で公共投資を中心とする政府の経済政策が転換し、公共投資は減少の一途をたどっています。そのような状況下で、道路や河川などの公共施設の整備についても説明責任が求められるようになり、周辺環境との調和や地球環境の保全、動植物との共存などが積極的に議論されるようになりました。

- 奈良俣ダム(平成3年)
- 碓氷橋—上信越自動車道(平成4年)
- 遠入川橋—上信越自動車道(平成4年)
- 妙義大橋—上信越自動車道(平成4年)
- 道平川ダム(平成7年)
- 四万川ダム(平成11年)

■まとめ

土木事業は、ただ技術力だけで語れるものではありません。それぞれの時代背景や人々のニーズに沿って具体的な形として表現されるものであります。私達の身の回りには多くの土木事業で建設した構造物が沢山あります。それらの構造物のお陰で、私達は日常生活をおくることのできるのです。私達はそんな構造物の意義を正しく評価するとともに、先人たちのご苦勞に感謝したいものです。



土木遺産位置分布図

エリア-A

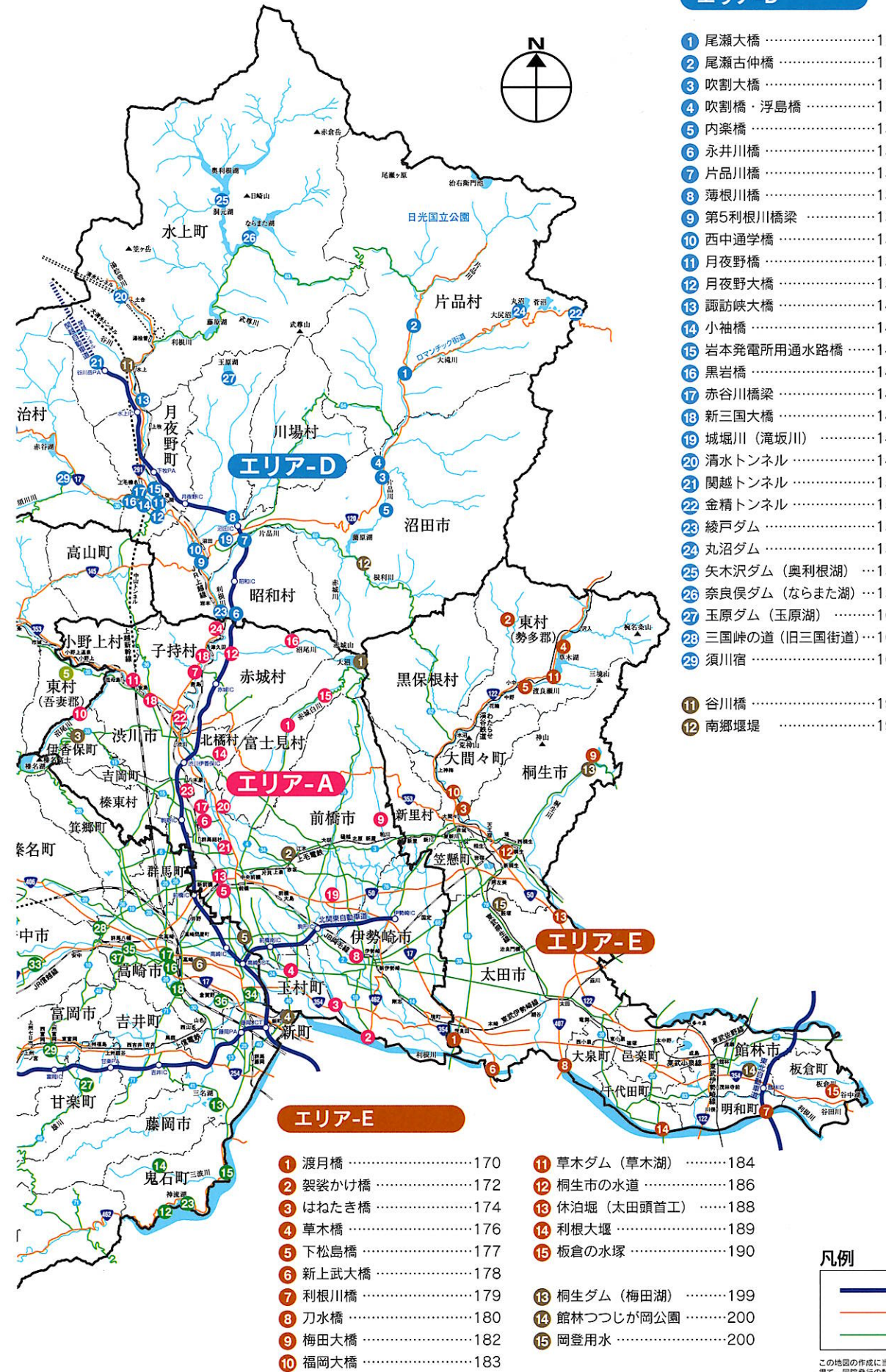
- 1 赤城南面道路 (旧有料道路) …18
- 2 坂東大橋 …20
- 3 五料橋 …22
- 4 福島橋 …24
- 5 平成大橋 …26
- 6 上毛大橋 …28
- 7 敷島橋 …30
- 8 三郷用水橋梁 …31
- 9 ささら橋 …32
- 10 湯中子橋 …34
- 11 吾妻川橋梁 …35
- 12 沼尾川橋 …36
- 13 利根橋 …37
- 14 眞壁ダム …38
- 15 赤城白川堰堤 …39
- 16 潜下堰堤 …40
- 17 天狗岩用水 …41
- 18 群馬用水 …42
- 19 女 堀 …44
- 20 大正用水 …46
- 21 前橋市の水道 …48
- 22 白井宿 …50
- 23 八木原の道しるべ …52
- 24 綾戸穴道 …54
- 1 啄木鳥橋 (きつつきばし) …194
- 2 寺沢川リハビリパーク …194
- 3 伊香保温泉の石段 …195

エリア-B

- 1 碓氷第3橋梁 (めがね橋) …60
- 2 夢のせ橋 …62
- 3 碓氷橋 …64
- 4 赤松沢橋 …66
- 5 遠入川橋 …67
- 6 霧積川橋梁 …68
- 7 妙義大橋 …69
- 8 神 橋 …70
- 9 萬年橋 …71
- 10 弾 橋 …72
- 11 大日向橋 …73
- 12 金比羅橋 …74
- 13 三名湖 (大谷湖) 三名川取水池 …75
- 14 瀧之橋 …76
- 15 渡戸橋 …77
- 16 高崎駅西口駅前広場 …78
- 17 柳 橋 …79
- 18 城南大橋 …80
- 19 内山トンネル …81
- 20 湯の沢トンネル …82
- 21 小坂トンネル …83
- 22 霧積ダム (霧積湖) …84
- 23 下久保ダム (神流湖) …86
- 24 道平川ダム (荒船湖) …88
- 25 橋倉川堰堤 …90
- 26 住居附沢川堰堤 …91
- 27 小幡宿 (雄川堰) …92
- 28 高崎市の水道 …94
- 29 石造り下水溝 (旧官営富岡製糸場) …96
- 30 妙義神社の石積 …98
- 31 碓氷峠の道 (旧中山道) …100
- 32 碓氷関所跡 …102
- 33 中山道 安中杉並木 …104
- 34 群馬の森 …105
- 35 豚塚の一里塚 …106
- 36 倉賀野の分かされ …107
- 37 少林山地すべり …108
- 4 岩倉橋 …195
- 5 昭和大橋 (公田の渡し) …196
- 6 長野堰 (円筒分水) …196

エリア-C

- 1 白砂大橋 …114
- 2 上妻橋 …115
- 3 野反ダム (野反湖) …116
- 4 鹿沢ダム (田代湖) …117
- 5 箱島不動尊堰堤 …118
- 7 万座川石張流路工 …197
- 8 万座川堰堤 …197
- 9 笹平 (万座鹿沢口) 急傾斜 …197
- 10 四万川ダム (奥四万湖) …198



- ### エリア-D
- 1 尾瀬大橋 …124
 - 2 尾瀬古仲橋 …126
 - 3 吹割橋 …127
 - 4 吹割橋・浮島橋 …128
 - 5 内楽橋 …130
 - 6 永井川橋 …131
 - 7 片品川橋 …132
 - 8 薄根川橋 …134
 - 9 第5利根川橋梁 …135
 - 10 西中通学橋 …136
 - 11 月夜野橋 …137
 - 12 月夜野大橋 …138
 - 13 諏訪峡大橋 …140
 - 14 小袖橋 …142
 - 15 岩本発電所用通水路橋 …143
 - 16 黒岩橋 …144
 - 17 赤谷川橋梁 …145
 - 18 新三国大橋 …146
 - 19 城堀川 (滝坂川) …147
 - 20 清水トンネル …148
 - 21 関越トンネル …150
 - 22 金精トンネル …152
 - 23 綾戸ダム …153
 - 24 丸沼ダム …154
 - 25 矢木沢ダム (奥利根湖) …156
 - 26 奈良俣ダム (ならまた湖) …158
 - 27 玉原ダム (玉原湖) …160
 - 28 三国峠の道 (旧三国街道) …162
 - 29 須川宿 …164
 - 11 谷川橋 …198
 - 12 南郷堰堤 …199
- ### エリア-E
- 1 渡月橋 …170
 - 2 袈裟かけ橋 …172
 - 3 はねたき橋 …174
 - 4 草木橋 …176
 - 5 下松島橋 …177
 - 6 新上武大橋 …178
 - 7 利根川橋 …179
 - 8 刀水橋 …180
 - 9 梅田大橋 …182
 - 10 福岡大橋 …183
 - 11 草木ダム (草木湖) …184
 - 12 桐生市の水道 …186
 - 13 休泊堀 (太田頭首工) …188
 - 14 利根大堰 …189
 - 15 板倉の水塚 …190
 - 13 桐生ダム (梅田湖) …199
 - 14 館林つつしが岡公園 …200
 - 15 岡登用水 …200

凡例
 高速道路
 国道
 県道

この地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図25000 (地形画像) を使用したものである。(承認番号 平17製図 第377号)